

質問１：事前

株式会社ＩＨＩ原動機における試運転記録の不適切な修正行為の原因および再発防止策について（ご質問・ご意見）

<回答>

子会社である株式会社ＩＨＩ原動機が製造する船舶用エンジンおよび陸上用エンジンに関する試運転記録に不適切な修正が行なわれていたことが判明し、本年４月にこれを公表しました。現在、弁護士をはじめとした外部有識者で構成される特別調査委員会を設置し、原因究明および再発防止策の策定に取り組んでおります。

株主さまや関係するステークホルダーの皆さまにご迷惑とご心配をおかけしておりますこと、心よりお詫び申し上げます。

今後、特別調査委員会の調査結果もふまえ、ＩＨＩグループとして二度と不適切な行為を起こさせないという強い決意のもと、抜本的な再発防止に取り組んでまいります。

本事案についてのこれまでの調査結果は、６月４日に公表いたしました、[調査報告書（第１報・中間報告）](#)をご参照ください。

質問２：当日

子会社の不祥事に対する責任について（ご質問）

<回答>

当社といたしましては、本事案を大変重く受け止めております。関係者の処分等につきましては、今後公表を予定しております最終報告を受けて、お知らせする予定です。

質問3：事前・当日

PW1100G-JM エンジン品質問題の原因や影響について（ご質問）

<回答>

共同事業パートナーが2015年から2021年にかけて製造したエンジン部品について、その材料に異物が混入している可能性が判明しました。該当する部品は、想定より早く破損する恐れがあるため、追加検査や早期交換が必要となりました。

同エンジンは、世界中の航空会社で数多く運航されるベストセラーエンジンであるため、交換部品の製造や追加の検査・整備に時間を要し、結果として、多くの航空機の運航が一時的に停止となり、この期間の航空会社への補償費用が必要となりました。

共同事業においては、参画する各社のシェアに応じて利益を受け取り、また費用を負担する契約となっています。従いまして、本事案に関する費用につきましても、当社のシェア分を負担することとなり、その影響額は売上収益および営業利益ともに約1,600億円となりました。

なお、原因となった製造工程の改善は実施済みであり、品質基準を満足していることを確認しております。

質問4：事前・当日

株主還元策について（ご質問）

<回答>

当社は、事業活動を通じて社会課題の解決を図り、持続可能な社会の実現に貢献していくことで、中長期的な企業価値を向上させるべく取り組んでおります。

これらの取組みを皆さまにご理解いただけるよう情報発信し、株主さまとの対話を積極的に行ない、市場から評価を得られるように努めるとともに、当社

の配当方針に基づき、安定的な配当を実現してまいります。なお、連結配当性向は30%を目指すこととしております。

質問5：事前

社内取締役の持ち株数が少ない（ご意見）

<回答>

社内取締役につきましては、広くステークホルダーの皆さまとの価値観を共有することを目的とする、中長期的な業績や企業価値と連動する業績連動型株式報酬を導入しております。

質問6：当日

宇宙ロケット事業の現状と今後の展望について（ご質問）

<回答>

株式会社IHIエアロスペースが開発および打上げを担当するイプシロンSロケットに関しては、宇宙航空研究開発機構（JAXA）の主導の下、これまでのトラブルに関する原因の確認および対策を完了しており、2024年度内の打上げを目指しております。

スペースワン株式会社が開発するカイロスロケットに関しては、本年3月の初号機打上げは残念ながら飛行中断となりましたが、民間による独自開発でここまで到達したことは大きな一歩と考えています。早期に2号機の打上げを実施できるよう、当社として最大限の支援をしてまいります。

低軌道への小型衛星の打上げは世界的な需要の伸びが見込まれております。当社グループとしては、日本およびロケットを持たない国の政府系衛星ならびに国内外の民間衛星打上げの受注に注力してまいります。

質問 7 : 当日

次期戦闘機用エンジンの開発について（ご質問）

<回答>

次期戦闘機については、2022 年 12 月に、日英伊の 3 カ国で共同開発されることが発表され、2023 年 12 月には、本事業を円滑に進めるための政府間機関設立に関する条約への署名がなされました。

当社は、政府の方針にもとづき、エンジンメーカーの日本代表として、パートナー企業や日本政府・企業と連携して着実に開発を進めてまいります。

以上